

# うめのき幼稚園だより

令和6年1月31日  
北区立うめのき幼稚園

げんきもりもり

えがおにこにこ

ひとみきらきら

2月

## 自分で決めた目標

園長 篠澤 恵理

年少りす組の子どもたちは、園庭の土手を登ったり降りたりする鬼ごっこを、毎日の楽しみとしてしています。土手に登ると、園庭の様子が分かり、鬼がどちらから来るかを予測できるので、相手の動きに応じて左右のどちらから逃げるかをよく考えています。鬼役の方も、土手の上にいる相手の動きを見て、すぐに登らずに先回りして待ち構えることもありました。敏捷性や、咄嗟の判断力が鍛えられています。急な斜面を転ばずに降りることは、子どもたちが決めた目標のように、スリル感や達成感を味わいながら繰り返しています。

年長もり組は、陣地にある宝を相手に捕まらないように取り合う「宝取り」の鬼ごっこが大好きです。仲間と声を掛け合いながら、力を合わせたり捕まった友達を助けたりと、それぞれがよく考えながら動いています。勝ったチームにインタビューすると、「相手が見ていないところを素早く行く。」とのこと。何気なく動いたことでも、何故そう動いたか、その時どう思っていたかを言語化してみると、自分の考えとして自信をもち、次の作戦としての意識が高くなるようです。自分が思いや動きを、もう一度なぞって見つめ直すことは、「自分の考え」や「次はこうしたい」という気持ちが印象付けられ、「意欲」や「思考力」につながっていくと感じています。幼稚園では、自分の考えたことや動いたことを、学級の友達と一緒に振り返る時間を大切にしています。行動の理由や、その時の感情、相手の気持ち等、丁寧に聴き取ると、何を考えどうしたいかということが明らかになって、次への意欲につながると考えています。意欲の先に、目指したいものが見えてくるといいですね。自分の目標になっていく過程に寄り添い、耳を傾けていきたいと思います。



## えがおにこにこコーナー

幼稚園の畑では、キャベツやブロッコリーが大きく実り、収穫してみんなで食べました。手に持ったときの重さや葉の大きさに驚き、新鮮な野菜の甘さを感じる日となりました。

年長もり組は、「子ども劇場」に向けて、劇遊びを楽しんでいます。大道具・小道具も衣装も手作りの劇です。子どもたちのアイデアをたくさん取り入れた台詞や演出もあり、台本は毎日更新されています。

年少りす組は、大型遊具を組み替えながら、自分たちで遊びの場所をつくっています。何かになって動いたり、友達とのやり取りを面白がったりして、想像力を働かせています。自分と違う何かになることは、相手側に立って物事を考える機会にもなるので、ごっこ遊びは、幼児期に必要な遊びと言えます。ごっこ遊びの延長に、劇遊びがあるということも大切にしながら、子どもたちの表現力を育ててまいります。



もり組「キャベツの収穫」



もり組劇遊び「金のガチョウ」



りす組「大型遊具で車作り」